

# 副主任コラム2月号

副主任 澤井 良子

今月は、生活発表会について書きたいと思います。27日・28日に保護者の方1名ではありましたが御覧頂くことができました。ご理解ご協力ありがとうございました。

2歳児から5歳児までの発表でしたが、今回は発達面や4月から保育の中で出来るようになったこと、得意なことを見て頂くという事に重点を置いて取り組んできました。2歳児は、着脱や朝の集まりの様子などの生活面を劇にしていました。おぼけの衣装に着替えるところなどは、個々の発達に応じて子どもも保育士もせかすことなく見守り、また着替えた子からマットに座るなど保育士に言われなくてもできるという面が、リハーサルの時からすごいなと思って見ていました。

3・4・5歳児は、6つの劇から選択し自分が何のお話で何の役をしたいか…というところから始まりました。保育士は6人。1人1つの劇の構成・音響・衣裳・小道具作りなど各グループ17名の子ども達と一緒に作りあげてきました。子どもの案や特技(1人1人がお家の方にどこを見てほしいか)を聞いたり、本番にもっていくまで大変だったと思います。私も6つのグループの手伝いに入ったりしていましたが、先生達も子ども達も一緒に絵の具や糊まみれになりながら作業し当日を迎えました。

本番までの間の子ども同士のエピソードや、裏話をいくつか紹介したいと思います。

◆年少児のKちゃんは、自分の出番になるといつも恥ずかしそうに同じ役の子と出てきていました。自分のセリフになると黙ってしまうこともあり、横の年中児のTちゃんが小声で「○○だよ」とセリフを呟いて教えたりしていましたが、言えそうにないな…と感じたのか、次のセリフの子に「もうとぼしてあげよう」と気持ちを汲み取ってくれていました。けれど毎回Kちゃんは頑張っって自分のタイミングでセリフを言い、Tちゃんも安心したような表情をみせていました。当日のKちゃんは今までの中で1番堂々とセリフが言うことができ、きっとそれまでそばで助けてくれていた年中児のTちゃんの思いや周りの仲間の優しさも伝わったのではないかと感じました。そして何より笑顔で見えてくれたお母さんの存在も大きいのではと思いました。

◆いつも練習の時から先頭で出てきて、大きな声で歌いセリフを言っている年中児のAちゃん。当日の朝に「Aちゃんがいつも元気に大きな声でみんなを引っ張ってくれてるから、みんなドキドキしても頑張れるんだと思うよ。今日もお願いね」と声を掛けると『でもAちゃんこれ以上大きい声出すと泣いてしまう』と言いました。私は思わずAちゃんを抱きしめたくなり、「涙がでたら受け止めるから、いつもどおりでいいよ」と声をかけました。Aちゃんは本番も大きな声で、涙を見せることなく演じてくれました。

◆ネズミ役のYちゃんは、歌や劇中の特技披露の時も「すごい・すごい!」といつも人一倍大きな声を出していました。お母さんにもそのことを伝えると、横で聞いていたYちゃんは「だって、大きい声出したらお母さんにもちゃんと聞こえるもん」と言っていました。そんな思いで頑張っていたんだなとYちゃんの胸の内を知り、嬉しくなりました。

- ◆ホール練習の初日のことです。ある劇でみんなが歌うシーンの時に客席から子どもたちの顔が見えず「お客さんにみんなの顔が見えるようにした方がいいよ」と子ども達に伝えたら、次からは年中児のSちゃんが「〇〇ちゃんここ」と見えるように声をかけていたので、大人は入らずSちゃんに任せました。子ども同士で考えをやりとりし、年齢問わずまとめてくれる姿に成長を感じました。
- ◆私は、音響を任されることが多かったのですが、ある劇では役とナレーターもしていた年長児のSくんが「澤井先生、そこは音を下げてください。僕のナレーターが入るで。終わったらまた音上げてな」教えてくれました。そこから私はSくんを頼るようになりました。自分の出番以外の事も把握できていることに驚きました。
- ◆ある劇では、私は物の出し入れの役になっていました。渡された台本を見ながら、次に必要な物の出番を待っていました。見ていると台本通りでなく、時にはアドリブや、セリフが飛んだ時には誰かがカバーするようにセリフを言い、劇が展開されているのに気づき驚きました。子ども達の中にセリフや話が沁み込んでいるのだと思いました。きっと見ているだけでは分からないくらい自然に劇を演じていく姿にただただ感動しました。
- ◆ホールでの練習の時にりす組の子が見に来てくれていました。どろぼうがっこうの劇を見た後にKちゃんが『どろぼうさん捕まったらかわいそう』と呟きました。話の内容も理解して感想を言ってくれた事や真剣に見てくれていたんだなあと感じたと共に、小さい子にも大きい子の演じている姿を見せることの大切さを感じました。演じた子もりす組の子の呟きを伝えると嬉しそうでした。
- ◆本番前日の夕方の事です。劇の担当保育士が「少しでも子どもの不安を取り除くことができるように…」と製作の手直しをして子どもと最終確認をしあっていました。最後まで保育士も子どもも一緒に支えあっているんだなと思いながら私は見ていました。

まだまだ伝えたいエピソードはいっぱいありますが、私が見て感じたほんの一部を紹介させていただきました。12月初めから取り組みこの日まで子ども達も先生達も一丸となり、それぞれの個性を尊重しながら劇に思いを入れ、モチベーションも上げながら頑張ってくれたことに私は感謝でいっぱいです。「緊張する」「できやんかもしれやん」「先生！できた!!」と、当日は色んな子の思いや表情がありました。自分で決めた特技もプレッシャーがあった子もいたと思います。当日の姿が全てではなく、今まで練習してきた姿も思いも私たち保育士はたくさん見てきました。保護者の方々にはこれからもそんな姿や思いをお伝えしていきたいと思っています。

いろいろと制限のある中、少しの時間ではありましたが、ご観覧頂きありがとうございました。